

私を支えてくれるもの

馬田小学校5年

草場 陽咲

みなさんはどのような時になみだを流しますか。人によってちがうでしょうが、悲しい時やうれしい時など、大きく心が動いたときになみだは流れると思います。

私には、わすれられないなみだが一つあります。それは、教室に一人でいた私に「いっしょに遊ぼう。」

と言ってくれた友だちの優しさに流したなみだけです。

私は自分のことを話したり、自分がしたい

ことを進んでしたりすることが苦手です。時には、心がいっぱいになって、無意識に泣いてしまうこともあります。そんな私なので、どんなに困ったことがあっても、友だちに声をかけることもできませんでした。

ある日、私はいつものように教室に一人でいました。一人でいることは、さみしいことだと思っています。けれど、「いっしょに遊ぼう。」の一言は、何度も心から出発して、いつものどで止まってしまうことがあります。そんなことばかりが続くので、「私には友だちがいないのかな。」と考えてしまうこともあります。そのたびに、私はとても悲しくなりました。

そんなことばかりが続いていたある日のことでした。「今日も一人で過ごすのかな。」とふさぎこんでいた私の耳に

「いっしょに遊ぼう。」

という声が聞こえてきました。私は自分の耳をうたがいました。それでも、勇気をふりしぼって顔をあげました。すると、そこには私

の顔をのぞきこむ友だちの顔がありました。私は、こんなだれでも経験しているようなことが、とても幸せに感じました。それは、一人でいることの辛さをだれよりも知っていたからかもしれない。気づくと私のほほにあたたかななみだが流れていました。

今、私には友だちがいます。決して多いとは言えないかもしれないけれど、私にとってはとても大切な友だちです。友だちは、いつも私を支えてくれます。私は算数がとても苦手です。問題が解けなくなると、頭が真っ白になって悲しいなみだが流れます。でも、そんな私に友だちは気づいてくれます。そして、いっしょに問題の解き方を考えてくれます。学校にいる間、私は一日中、友だちのたのもしさを感じています。

友だちがいるということは、とてもすてきなことです。ただそばにいるだけで、たくさんの勇気と優しさをもらうことができます。時には、考えが合わなくてぎくしゃくすることも

あるけれど、そのたびに友だちのことをもっとよく知ることができていく気がします。あの時に流したあたたかいなみだを、わたしは決してわすれません。そして、いつか、あの時の私のようにふさぎこんでいる友だちがいたら、勇気を出して

「いっしょに遊ぼう。」
と声をかけようと思います。

住みやすい街づくり

馬田小学校6年

山田 瑛介

ぼくは夏休みに、甲子園での高校野球を見るために家族で大阪へ行きました。甲子園で見る生の試合は迫力があり、とても感動しました。

しかし、今回の旅行で、もっと感動したことがあります。それは、外国人や障害者、高齢者にとって住みやすい街になっていることです。

大阪へ行く際のフェリーでは、車いすを使っている人でも乗りやすいようにスロープが

ありました。また、船内地図には点字が使われていました。さらに、ぼくたちが乗ったバスには、聴覚障害がある方へのマークである耳マークが貼られていました。ぼくは学校の授業で耳マークのことを知っていたので、お父さんに

「お父さん、このマーク知ってる。」と質問してみました。すると、
「全然知らない。」

と言われました。ぼくは、大人の人でも知らないのだとおどろきました。

この後も、「住みやすい街」を意識しながら周りを見てみると、たくさんの工夫を見つけることができました。甲子園球場では、車いすを利用していている人でも見られるような、少し間隔が広い場所がありました。そこは出入りもしやすく、車いすの人は使いやすいと思いました。他にも、介助犬のマークや外国語を話すことができるスタッフがいるお店がありました。

電車でも、車いすやベビーカーの優先スペースがありました。そこでは、お父さんが、ベビーカーを押している人がいることにすぐに気がつき、

「ここへどうぞ。」

と声をかけていました。そんなお父さんの姿を見て、「お父さんはすごいな」と感じました。ぼくはマークを知っていても自分から声をかける勇気がでるか、少し不安です。しかし、マークを知っているだけでなく、行動に移すことも大切だということにも気がつきました。

今までを振り返ってみると、ぼくは朝倉にいるときは住みやすい街づくりについてほとんど考えたことがありませんでした。しかし大阪でいろいろなマークを見たことで、普段生活をしている場所にどのようなマークがあるのか、気になるようになりました。

ぼくたちが住む朝倉市も、だれもが住みやすい街であって欲しいと思います。たとえ生

活に不便を感じている人が少なくても、最後の一人まで忘れてはいけません。不便を感じる人がいない街づくりは、みんなにとつて住みやすい街づくりにつながっているからです。ぼくも自分にできることを見つけて、行動できるようにしたいです。

その言葉送る前に考えて

大福小学校5年

山崎 悠太

「○○、死ぬな。」

スマートフォンメッセージのやりとりで、この言葉を使うと、二つの意味にとらえられるという話を聞きました。一つは、「死なないで」という意味です。もう一つは、「もう死ぬだろうな」という意味です。このように、文字だけでのやりとりでは、ごかいをうんでしまうことがあります。だから、メッセージのやりとりでは、相手の気持ちを考えてしん重に言葉を選ばなければなりません。

夏休みに入り、いところからスマートフォンのメッセージがとどくようになりました。朝から夜遅くまで、何度も「ピンコン」という音が聞こえます。しばらくはがまんしていたけれど、がまんの限界にきたぼくは、「意味なくメッセージを送らないで！」と返信をしました。すると、いところからのメッセージは全くこなくなりしました。はじめは、こなくなってよかったと思っていたけれど、だんだんと心配になってきました。それは、ぼくが送った言葉でいところがいやな思いをしたのではないかと思っただけです。ぼくはメッセージのやりとりじたいは楽しかったけど、時間や回数を考えてほしかっただけなのです。でも、いところにはそれは伝わっていません。

この場合は電話をして直接話せばよかったですと思います。直接話すと、自分の気持ちをくわしく伝えられるし、声の調子でおこっているか伝わるからです。顔を見て話すことができるなら、それが一番よかったです。

す。今度、祖父母の家で会ったら、きちんとぼくの気持ちを伝えようと思います。

また、友だちからのメッセージがきたとき、いそがしくて読むだけで返事をするのができなこともありました。するとその友達は、「もしかしておれのことくらい？」と送ってきました。これを見てぼくは、友達がおこっているのか、悲しいのか、じょうだんで送っているのかわかりませんでした。そこでぼくは、「きらいじゃないけん安心して」と送りました。返事をしないことで相手を不安にさせたり、相手がどんな気持ちなのかかわからなかったりすることがわかりました。

このように、スマートフォンでメッセージのやりとりをするときには、相手の気持ちをよく考えることが大切です。自分が送った言葉で相手がどんな気持ちになるか、相手の立場になって考えてみるとよいと思います。

このことは、決してメッセージのやりとりの場合だけではありません。友達と話するとき

や遊ぶときも同じです。相手の気持ちを考えずに軽い気持ちで言ったつもりでも、相手を深くきずつけることもあります。きずつけてしまった心はもとにもどすことがむずかしいです。

このことから、ぼくは、友達と遊ぶときやメッセージのやりとりをするときには、相手の気持ちをよく考えてしんちように言葉を選ぶと思います。とくに大事なことは、メッセージではなく相手の顔を見ながら直接伝えていこうと思います。

相手の気持ちを考える

甘木小学校 6年

松尾 麻白

私は、甘木小学校に通っています。ニュースに取り上げられているような「いじめられている子」は、見たことはありません。SNSなどによる誹謗中傷を受けている子も知りません。しかし、ニュースで知る世界では、いじめを苦に学校に行けなくなってしまうたり、自らの命を絶ったりしている子がいます。「もしかすると、私の気がつかないところで知らないところで、毎日泣いたり悲しい思いをしたりしている人がいるかもしれない。」そ

う考えることもありまう。

ふり返ってみると、以前、私もいやな思いをしたことがあります。ある日の朝、学校に着くと、友だちからいきなり、いやな呼び方で呼ばれたことがあります。初めて呼ばれた時、「えっ。」とおどろきました。今までに友だちのだれからも、その呼び方で呼ばれたことがなかったからです。次の日も、その次の日も、その呼び方で呼ばれました。呼ばれるたびに「いやだな。」と思い、イライラが増してきました。しかし、友だちは気にしている様子がありません。「いつまで続くのかな。」正直もうやめてほしかったです。

しばらくすると、いやな呼び方で呼ばれなくなりました。正直、ほっとしました。今思えば、これがずっと続いていたら、今でも私はずっと悩んでいたと思います。ちょっとしたところかもしれませんが、私にとって、その呼び方は「いやなこと」だったからです。

「いつ言われるかな。」「また言われたらどう

しよう。「人によって言われたくないことはちがうと思いますが、私と同じように、「何て言われるだろう。」と気にしてしまう人は、たくさんいると思います。

いやな呼び方で呼んだ友だちも、きつと「悩ませよう」「いじめよう」と思って言っているわけではないと思います。だけど、その時に、相手の気持ちを考えることができる人は、すぐに止めることができると思うけれども、相手の気持ちが分からない人は、すぐに止めることができず、ずっと言い続けることになると思います。もしかすると、私も友だちにそんなつらい思いをさせたことがあるかもしれません。私が気付いていないだけで。

ニュースで取り上げられている「いじめ」問題は、私から遠い世界の話ではなく、私の身近にも起こりうる問題なのです。「相手の気持ち考える」ことで、だれでもが過ぎやすい、優しい社会に変わっていくと思います。だからこそ、今の私にできることは、も

し、私が友だちにいやな思いをさせたり、きづついたりした時には、すぐに気付くことができる人であること。もし、自分がされていやだと感じたり、思ったりした時には、「やめて」と言える強さをもつこと。今の自分にできることから始めていきたいと思います。